



令和2年度の活動がスタートしました

次第に夏めいてまいりましたがいかがお過ごしでしょうか。

6月に学校が再開され、新型コロナウイルス感染症予防策の徹底を行う中で、地域学校協働本部の2年目の活動がスタートしました。今年度は、地域・保護者・学校で協働しながら、共に児童の育成を図れるように、これまで以上に活動を充実させ、地域の教育力を学校に生かしていきたいと考えております。

6月に行った活動を紹介いたします。

体育用具の消毒を行っています

学校が再開され、子供たちの元気な声が校舎内に響き渡るようになりました。学校再開に当たり、新型コロナウイルス感染症予防策があります。子供たちが使った後の教室の机や椅子、体育用具の消毒は毎日欠かせない作業となりました。消毒対応に追われる現状を心配して下さった、地域の方から「何かお手伝いできることはないでしょうか」というお言葉をいただきました。そのことがきっかけで地域学校協働本部では学習用具の消毒作業を企画し、すぐに活動を開始しました。

6月18日(木)に、地域の方とPTA本部役員の方が放課後に来校し、体育館にて体育用具の消毒作業を行っていただきました。ゴム手袋を付け、紙ナプキンに、次亜塩素酸ナトリウム液をしみ込ませて、ウイルスが広がらないように、一方向で拭いていきました。この日は、8名の方に参加していただきましたので、10分程度で作業を終えることができました。

6月中は、地域の方とPTA本部役員の方が、毎日、交替で体育用具の消毒を行っていただきました。7月からは、ボランティアに応募して下さった保護者の方が加わる予定です。消毒する範囲を広げ、新型コロナウイルス感染症予防対策をより強固にしたいと考えています。

地域学校協働本部では、これからも地域の方、保護者の方と共に本校の教育活動がより充実するように活動を進めてまいります。



「梶の木」が本校の敷地に移植されました

「梶の木」という樹木をご存知でしょうか。江戸時代、この梶の木の葉っぱに墨で願い事を書き、七夕の短冊代わりにしていたそうです。赤羽小学校の新校舎建設予定地にはこの「梶の木」が一本自生していて、地域の方が偶然、見つけたそうです。「そのまま伐採されてしまうのは惜しい」という思いを関係の方々にお伝えになったところ、現在の赤羽小学校の敷地の猫塚の隣に移植されることになりました。6月には「梶の木」の紹介文を梶の木の近くに掲示しました。本校にお立ち寄りの際には、ぜひ、「梶の木」をご覧ください。

